

平成27年度 第2回平塚市食育推進会議 会議録

日時 平成28年(2016年)3月25日(金) 午後2時から午後3時30分まで
会場 保健センター 3階 会議室1、2
出席者 森政委員、石田委員、加藤委員、岩田委員、三浦委員、永瀬委員、山中委員、守泉委員、
添野委員、佐藤委員、上月委員、國正委員、伊藤委員(計13名)
事務局

1 開 会

本会議は平塚市情報公開条例第31条に基づき、原則公開となる。会議終了後には、会議録をホームページに掲載する。本日、傍聴者なし。野戸谷委員、松本委員欠席連絡あり。

2 議 題

(1) 第2次平塚市食育推進計画の進捗管理について(資料1-1、1-2)

事務局：計画の推進に関する評価としては平成31年度の間接アンケートと平成36年度の最終アンケートで評価をしていく予定である。計画に掲げている指標に対して本市が行った取組みをこの会議で確認していただき、御意見をいただきたいと考えている。施策ごとに関係各課が実施する具体的な取組みは、計画書の35ページ以降に記載している。担当課から年度ごとに取組みについて報告をするという形で、皆様に計画の進捗を見ていただきたいと考えている。関係各課からの事業に関する報告は進行管理シート[※](資料1-1)で行う予定である。その中にある担当課、計画事業名、事業内容に関しては、ほぼ計画書に記載のあるとおりとなっており、事業実績の項目のところでは各課が取り組んだ年度ごとの実績を記載していくことになっている。事業の開催回数や参加者数、資料配布数等、数値で記載をしている。数値での記載が難しい事業については、具体的にどのような工夫をしたか、といった内容で実績として記載をするよう各課に報告の準備をしてもらっているところである。それぞれの課で事業の実施後に見直しを行っているが、事業の継続、拡充、縮小についても報告をもらい、委員の皆様にも分かるような形で報告ができればと考えている。資料1-1は関係各課が使用する報告シートで、皆様への報告は資料1-2のような形を予定している。資料に記載している内容は、前回の会議で皆様にお渡ししたものと同一内容になっている。(年度のみ変更してあり、内容は平成26年度の報告のもの)年度内に新しく始まったような計画書に記載のない事業や次年度以降に見直した事業をシートの最初のページでお伝えできればと考えている。前計画も同じような形で報告をさせていただいたので、第2次計画についてもこの形で進捗管理をしていきたいと考えている。

会 長：10年計画の初年度ということだが、第1次と大幅な変更はないようなので比較がしやすいと思われる。シート案のとおりでいいか、何か加えたほうがいいか、何か御意見はあるか。量的にも質的にも把握がしやすく、これまでと比較がしやすいものになっているので、これでいいと思うがどうか。

伊藤委員：報告を見ると立派だが、実際に反映されたものが見えてこない。成果がよく分からない。参加してもらったとしても、実践しているのかどうかは疑問である。歯が食育で大事だと言われているが、なぜ大事なのかといった意味が伝わっていない。仕事が不規則

で歯磨きが後回しになると虫歯や歯周病になったり、数本抜歯をしなければならなくなったりするので、いかに歯が大切かというのを周知しなければいけないと思う。参加者数等の報告をしてそれだけでいいのかどうか。前回、便の移植の話を見せてもらったが情報の共有どころか話題にもなっていない。この計画には医師や歯科医師が携わって協力しているにも関わらず結果が見えず、浸透度も分からない。

会 長：進捗状況を把握するための調書がこの形態でいいのかどうかというのが今の議題である。このシートに加えるべきものがあるなら具体的に項目を言っていただくと分かりやすい。
伊藤委員：事業内容の項目について、誰もが把握できるようにするために情報の共有ができるとよりはっきり自覚して実践できるのではないか。

会 長：情報の共有というのは、どういう項目があれば皆さんが共有できるのか。
伊藤委員：虫歯がない人や内臓疾患で病院に行ったことのない人はどういう生活、食生活をしているのかを調査、集約した情報が発信されて、それを聞いたりすることで活性化する。それがどこかに反映されないかと思う。

会 長：この会議では、計画がきちんと進捗しているかを確認することが委員の仕事である。進捗を確認するために事業ごとにシートに記載してもらい、成果が把握できるかどうかを確認しないとイケない。このシートが曖昧だったり、分かりにくいということであればシートそのものの修正が必要になる。例えば、資料1-1では健康課が実施している母親父親教室について、どのような業務でどのくらいの回数、どのような人を対象にどのような形態で実施したかが把握できる。数値が出るものだけでなく、結果や特性を把握していくにあたって、ふさわしいものかどうかを確認することが今の議題である。参加した人の成果や結果については、今後、中間や最終の評価で把握をしないとイケない。また、その準備も進めないといけないが、その際には伊藤委員の意見を伺っていくが、事業の進捗状況を把握するためのシートについてはあまり細かいところまでの記載をすると、確認しづらくなる部分もあると思われる。シートについては資料1-1、1-2のような形式でいいのではないか。他に御意見はあるか。

上月委員：計画の大きな目的というものはあると思うが、事業ごとの目的がもう少し明確に出てくれば、目的に対して事業を実施した結果、どのように反映されたかということが記載しやすくなるのではないかと思う。

会 長：事業名や事業内容の前のところに項目があるといいということか。

上月委員：目立つところでなくてもいいと思うが、このシートを見る限り目的がはっきり分らないと思う。記載があったほうが評価がしやすいのではないか。

会 長：シートの中に事業の目的があったほうがいいということであれば、まとめるところにあってもいいかもしれない。そうすればフィードバックがしやすいということと、中間評価や最終評価のところで、何を目的にどういう結果を求めて事業が実施されたかがクリアになると思われる。各課で実施する事業には目的が明らかにあるはずなので、最後のまとめの中に目的の欄があると、5年後の中間評価の際にアウトカム評価がしやすくなるのではないかということはあると思う。御検討いただきたい。

永瀬委員：シートでは、保育課だけでなく他のところでどういう事業が実施されているかを見ることのできるの、とても良いと思う。シートを見ると、乳幼児健診後の電話相談数が

かなりあることが分かるが、保育施設の方たちに、対談のようなものがもっと必要なのだということを今度伝えたいと思った。

会 長：横だけではないつながりが見える枠組みになっているということだと思う。このシートの内容は平成26年度のものだが、平成27年度の報告が出てきたとき、同様に関連のあるところを縦系で見れば、他でどのようなことを実施していて、自分たちと接点のある対象の方がどのような課題を抱えているかが分かり、連携したり、こちらの方針がとりやすくなったりするということだと思う。例えば、来所の相談者がどのくらいいるのか、乳児健診後にどのくらい電話相談をしているのか、といったことが事業の参考になることもあると思われる。次年度もこのように取組みが分かるシートの作成をお願いしたい。また、ここで出た御意見をぜひ検討していただきたい。

(2)平成28年度の事業予定について(資料2)

事務局：現在、平成27年度の実行計画について各課に報告の準備をしてもらっているところで、次年度の方向性は、このシートでの報告をお願いしている。シートが出そろったのが4月末になるため、すべての事業の方向性は事務局でまだ把握ができていないが、2月に開催した食育推進計画進行会議の時点で分かっていた変更予定のある事業について、報告を受けたので皆様に御報告したい。基本施策(1)の母親父親教室(計画書P.36)について、資料のとおり事業の変更を予定している。また、離乳食教室(計画書P.37)については開催内容の変更はないが、実施回数を見直しを行いたいと考えている。計画書自体には回数の記載をしていないが、出生率の減少もあり、参加者数に見合った形で実施回数を見直ししていきたいと考えている。次に基本施策(5)のサポートファーマー育成事業(計画書P.48)については、昨年度の実行計画の報告書でも記載をしたが、平成28年度は廃止という報告を受けている。担当課からは今後の事業については未定と聞いているが、食育に関する新たな事業等があれば報告を受ける予定となっている。最後に、基本施策(7)の食品の放射性物質簡易検査(計画書P.53)について、市と民間団体(NPO法人)との協働事業という形で、平成24年の12月から平成27年度末までというように期間を決めて実施してきたが、先日の3月14日に実施した検査で最終であるという報告を受けている。

会 長：資料が出そろったのが4月末ということなので、今後まだ変更の可能性はあるということである。今後の変更に関しては次回の会議での報告となる。御質問、御意見はあるか。

伊藤委員：母親父親教室で参加者数が少ないことについて、男子厨房に入らず、といった考えもあると思うが、キャッチコピーが大事だと思う。引きつけるような言葉を使わないと、見ても通り過ぎてしまうのではないかと。効果をあげるためには、食生活は男子厨房に入るべし、等はどうか。

加藤委員：逆に、今は夫が厨房に入っているのではないかと。自分の娘の場合も婿のほうが料理をいろいろ作っているが、健康に良い料理や、地元産のものを使うといった知識は夫は持っていないかもしれない。そういう場合に、どういう形で伝えればいいのか。母子健康手帳を受け取るのも母親が多く、父親は少ないのではないかと。

伊藤委員：父親が厨房に立つことで母親の労働が軽減される、ということがある。また、母親が安定しているとおなかの赤ちゃんに良いと言われる。心拍数が安定している母親のほう

が赤ちゃんに良いということもある。モーツァルトを聞きながら生活すると良い赤ちゃんが生まれる、作物についてもモーツァルトを聞かせながら育てると収穫量が増える、といった実績がある。スーパーでは客とのトラブルを防ぐためにモーツァルトを流したらトラブルが減った、ということもある。人間は環境が充実すればお互いに不足しているところを補って幸せになれるということを経験するために事例をもっと示すといいと思う。また、母子健康手帳を交付する際に家族で協力しあって幸せになるためには男子厨房に入るべし、といったところから母親の育児負担の軽減を含めて、まず家庭の幸せ作りをしていこうといった観点にたつての計画、事業を工夫することが必要ではないか。千葉県のある小学校では日本で一番の学校給食、体験レストランのようなものを作っている。レシピが採用されて弁当になっていたりする。平塚ではそういうことは聞いたことがないが、平塚の作物や海産物は素晴らしいものがある。平塚の人はそういうことを知らない。

一番最初のところ、つまり赤ちゃんが生まれるところに重点を置いて食育を行えば一生続くのだということが言いたい。

事務局：父親に対する周知が必要だという御意見をいただいたが、平塚市では母子健康手帳交付時に教室の案内をしたり、父子手帳を作って父親向けに家事等の分担が大事だということなどを周知しているところである。それをさらに充実させていくという形で受け止めさせていただきたいと思う。健康課ではないが、スマートフォン等のメディアを利用する若い方向けに子育てブログなどを実施し、興味を持ってもらえるような取り組みをしているところもあり、さらに充実させるということで受け止めさせていただきたい。

教室の名称に関しては、キャッチコピーがとても大事だということは理解をしている。他の教室についてもどのような名称にすれば参加してもらえるか、と試行錯誤しているところである。教室の報告を次年度の最初の会議でさせていただくが、何かキャッチコピーがあれば御提案いただきたいと思います。

会長：報告書を見ると、男性の参加が3分の1程度はあるようだ。体験型というところと食を含む生活や健康の管理につなげていくという主旨で統合を図ろうというところがあると思われる。知識は大切だが、実践がなくてはならないと思うし、赤ちゃんが赤ちゃんである時期も短く、卒乳までの期間でめまぐるしく変わる食について、いかにうまくサポートしていくか、ということが主旨だと思う。また、多くの方にとって参加しやすい、ということも今後さらに目指していただきたいと思います。

伊藤委員：赤ちゃんが生まれる、というのは生涯教育の第一歩である。その中には実践もある。酵素についてみんなあまり分かっていない。酵素は塩素を通すと効果が落ちるし、温度が上がってもだめである。焦げについて、昔から魚は大根おろしと共に食べるとガンになりにくいということがあるが、120度以上にならなければ発ガン性物質は出てこない、確立が低いと言われる。そういうことを踏まえていかにおいしく食べるか、というのは体験しないと人間は覚えていかない。数をこなすことによって習慣になり、身につけていく。知識だけでなく体験が大事である。

会長：平塚市は一生懸命取り組みをしており、いかに実践的なことができるかということから事業計画の見直しがあったと理解している。母親父親教室はランチオンセミナーの形式で

実施予定とのことだが、食べるということは、実際に自分で食べてみないと見て理解するだけでは難しい。みんなにとって実践的で参加しやすい形に事業変更をする、ということだと思うので委員の皆様にも事業の変更予定について御了承いただきたい。

3 報告

(1)(仮称)平塚市健康づくり推進条例について(資料3、4)

事務局：今年の1月から2月にパブリックコメントを実施した。条例制定の経緯や今後の予定について説明させていただく。条例制定の背景・目的については資料3のとおりである。前段階の経緯として、平成26年度に歯と口腔の健康づくりに関する条例制定の動きがあり、検討・協議を進めていく中で、健康づくり全般の条例制定を目指すということになった。条例制定にあたり、平塚市健康増進計画関係各課、関係団体、市民健康づくり推進協議会で調整して協議を進めてきた。条例の特徴については資料3の2のとおりである。条例の名称は仮称になっているが、パブリックコメントで公募を行ったので今後選定をする。条例制定の予定については資料3の3のとおりで、平成28年1月15日から2月15日までパブリックコメントを実施した。実施結果は資料4を御確認いただきたい。いただいた御意見を基に、今後、どのように回答し、反映させていくかを調整している段階である。次年度6月の市議会定例会に議案として提出予定で、可決されたあとにはより多くの方に知っていただきたいということから、6月末から9月末までを周知期間とさせていただく。委員の皆様には議案として提出する際に改めてお知らせしたいと考えている。

会長：以前の会議で、パブリックコメントがどういう形で収集されているのか分かりにくい、といった御意見が出たため、今回、事務局から資料が用意されたのだと思う。一つ一つの作業を丁寧に進めていただいている。何か御質問等あるか。

伊藤委員：件数が少なくて、大事なことなのにに関心がないのかと感じた。平塚市民の意識が低いのではないと思う。市民というのは国民であり県民でもあるので、平塚市民が自立することで良い結果が出たら多くの人に広げることができるのではないか。学生や社会人が学校や職場で取組むことで、さらに広げることができるのではないか。現実に小学生や中学生のアイデアが世界に広がっているということがある。周知には工夫が必要である。今後、気がついたことがあった場合は、提言なり質問なりをする機会があるのか。

事務局：パブリックコメント実施後は市議会への提案となり、公募という形での提言等については今後難しい。

会長：個人情報もあるので可能な範囲の回答でいいが、意見をいただいた3団体というのはどのような団体か。

事務局：市内の医療関係の団体等であり、その御意見は具体的な事業内容に関するものが多かった。

会長：パブリックコメントは、なかなか回収ができないというのが悩みであり、大変なことが多くあると思う。私達委員の一人一人も意識を向けて、こういったところに積極的にコメントを寄せるような意識を高めていかないといけないと反省を踏まえながら、より一層の御努力をお願いしたい。

これで本日予定していた議題は終了だが、事務局から報告事項があるようなのでお願い

したい。

事務局：本日、机上配付させていただいた資料として、「浜岳 第5号」、「広報ひらつか」の2部がある。「浜岳」は、昨年12月に村井弦齋の会の初代会長である鳥海氏から提供があり、平塚農業高校の生徒による活動内容が掲載されている。「村井弦齋まつり」における活動内容だけでなく、活動するにあたって、生徒がもともとどのくらいの知識を持っていたか、学校に入るまでは知らなかったけれど、自分たちもPRに携わりたいと思うようになった、というような嬉しいコメントも掲載されているので、皆様にも情報提供として配付させていただいた。「広報ひらつか」については、昨年12月の第3金曜日号に「健康は食にあり」という特集が組まれた。平成26年度末の会議で、第2次食育推進計画を策定したという報告をさせていただいた時に市民委員から、市民に広く周知するために各家庭に配付するような媒体等をもっと活用したほうがいいのか、といった御意見をいただいたところである。「食育」がテーマというわけではないが、内容に関しては食育推進計画や市独自の取組みが掲載された。行政だけでは市全体に食育を行き渡らせることができないこともあり、食生活改善推進団体の活動内容なども盛り込まれたことで、食育の周知につなげることができたと思う。ここから実践につなげていくことができればと思う。

岩田委員：食生活改善推進団体の活動のPRにもつながったと感じている。

上月委員：せっかく食生活改善推進団体の活動が紹介されたので、会員の募集の仕方などについて、毎年いつ頃募集をしているか、といった情報提供が少しでもできるとよかったです。掲載記事を読むと、会員の紹介で入会した、ということだけしか記載がなく、知らない人には分かりにくいのではないかと。市で養成講座の募集があって申込みをして、ということくらいでも周知になったかと思う。

事務局：2月の広報ひらつかには、食生活改善推進員養成講座の受講を募集する記事が掲載されたところである。

会 長：平塚農業高校の添野委員から御意見をいただきたい。

添野委員：浜岳郷土史会の方がみえて、農業高校にある農業クラブのメンバーが行った取組みについて記事執筆の依頼があり、掲載していただいた。写真の両側にいるのが顧問である。「弦齋カステラ」のレシピを見つけ出して作成をした。学校祭で販売をすると、あっという間に売り切れてしまう。他にもいろいろな活動はしているが、こういった形で食育に貢献ができていると思うので、何かあったら御連絡をいただければ協力できることはしたいと思っている。

会 長：推進計画も大事だが、若い世代の活躍などボトムアップ的な市民の活動を会議の中でも周知できればと思う。

加藤委員：平塚農業高校の方にはだいぶ前からお世話になっている。学校からお菓子を作りたい、ということで講師に呼ばれた際に料理の話も、と言われて鳥海氏を紹介したことが農業高校と弦齋の会につながるきっかけとなった経緯がある。その中で、生徒から自分たちで何か作れないか、という話が出た。学校の設備が驚くほど整っていたり、熱心な先生がいたり、いくつかレシピを紹介した程度で特に指導はしなかった。弦齋まつりでも手伝っていただいていたありがたいと思っている。

添野委員：施設は古いが、県内の農業高校でも食品製造関係のある4校の中で、2クラス規模で実習をすることができるのは本校だけである。フリーデンやパンの蔵から外部講師を招いて実習などを行うことができる設備がある。

会 長：若い方が外に発信ができるというのは、設備も大事だが、先生方や周囲の方の熱意に支えられて、ということだと思う。今後もこのような実践例を推進会議で周知ができればと思う。

加藤委員：今まで小学校では、父親はほとんど参画していなかったが、学校で父親を呼ぶような企画をたくさん出していただいている。何らかの形で父親も、というように水を向けてもらっているが、子どもに関心を持つ父親は母親に比べてかなり少ないと感じる。子どもの食に対する関心や、妻への思いやりというものが大切だと思う。学校でもっと父親を呼び出してもらって、子どもに関心を向けてもらえるといいのではないか。

伊藤委員：減農薬、無農薬、有機栽培などが平塚でどの程度行われているか教えてほしい。

事務局：本日は湘南農業協同組合の委員が欠席。

伊藤委員：一番大事な水について、動物や植物が恩恵を被るべきだと思うが、平塚では工業で多くが使われており、地盤沈下が起きたりしている。この水は海まで行くので、地下水がきれいなところは小魚がたくさんいる。この辺では静岡のサクラエビ、タカアシガニなどがあるが、概ね高い山の地下水が海水の中に湧き出ているところほど魚がよくとれる。それをねらって回遊魚が来るが、それを閉ざしているのが工業である。地下水を使うと、おいしい作物ができる。神奈川県では横須賀から流れる水は船に積んで赤道直下を超えても腐らず、良い水だということが知られている。平塚は富士山系、丹沢山系、大山の水など地下水が非常に豊富にも関わらず、工業用に使用されており健康に反映されていないという現状がある。

会 長：委員の方の高い意識がこの会議を支えていると思う。今後も御協力をお願いしたい。本日の議題は全て終了となる。

4 閉会

次回の会議開催は7月か8月を予定している。

以 上